

産業用メモリーメーカーであるインテリジェントメモリー（IM）は、日本支社の（株）インテリジェントメモリー・ジャパンの設立を発表した。支社は東京に開設し、同社において3番目の海外支社になる。同社は2009年に経営破綻したDRAMメーカー、独キマンダのDNAを受け継ぐ企業で、産業機器向けのハイエンドからミドルレンジ市場、そしてニッチ市場に的を絞った事業戦略でメモリー事業を展開していく。

同社は、1991年に設立された香港を拠点とするDRAMモジュールメーカー「Pacific Fore Technology」がベースとなっている。その後、2013年にはドイツの半導体代理店であるMEMPHIS Electronic（メンフィスエレクトロニクス）傘下となり、14年からはメンフィスの自社ブランドDRAM部門を取り込むかたちでラインカードを拡充。DRAMの設計から

インテリジェントメモリー

日本で支社を開設



社とIMのCOO（右）NeumondaのCEO（左）Permeizer

モジュールまで一貫して手がけるメモリーメーカーとして再スタートした。

メンフィスは、創立30年を迎えた21年に大手ベンチャーキャピタルであるWalden International から出資を受け、MBO（マネジ

メント・バイアウト）のかたちで独立。その一環として、キマンダのノウハウと技術を活用し、メモリー

ン、メンフィス（半導体メモリー代理店）Neumonda Technology（IPおよびテストインク）の3社

が置かれるかたちになり、「メモリー」を共通項に持つそれぞれ別々の事業体として運営されている。

ちなみに、Neumonda社の「Neu」はドイツ語で「新しい」という意味であり、社名そのものが

キマンダのDNA継承

リユージョンのポートフォリオを提供するNeumonda Holdingとこの新会社を設立した。新会社の傘下にはIM（メモリーメーカー）

「新しいキマンダ」を表現している。Neumonda社のCEOを務めるPeter Poehnmüller氏はキマンダでメモリー製品開発のバ

イスプレジデントを務めた人物だ。COOにはメンフィスのマネージングディレクターのMarco Meggar氏が就任している。

IMが手がけるメモリー事業のうち、現在主力のDRAM分野では主にレガシー領域に的を絞っている。製品としてはSDRAMからDDR4の一部容量まで

に対応し、チップ設計のみならずモジュール工程までカバーする。前工程および後工程は台湾サプライチェ

「SLCモード」に対応した製品をルビークレードとして展開する。また、耐久性とパフォーマンス向上のための「オーバープロビジョニング」をSLCモードと組み合わせた「エマラルドグレード」と呼ばれる最上位グレードを全製品群に用意しており、信頼性を高めていることも特徴の1つである。

日本支社設立にあたり、同社のグローバルセールスリーダーであるDavid Radner氏は「日本は産業市場および組み込み市場において長い伝統を持つ非常に洗練された市場だ。インテリジェントメモリー・ジャパンがこの重要な市場で顧客やパートナー企業との深い協力関係を構築し維持できることを嬉しく思う」とコメント。また、日本支社代表を務める真石東明氏も「海外で採用実績のある産業用PC、テレコミュニケーション、およびネットワーク機器などをはじめとして日本の産業機器市場で事業を拡大していきたい」と意欲を見せている。

ーンを活用したアウトソーシングが主体となっている。レガシーDRAMでは珍しく大容量品を扱っていることも特徴で、DDR1では1GBビット、DDR2では2GBビット品、DDR3では8GBビット品などを取り揃えている。

21年からはNAND分野にも参入。DRAM同様に産業用に特化しており、TLC（Triple Level Cell）品でありながらもSLC品並みのエンデュランスを持つ

